JTB旅ホ連 7支部連合会

支部連合会長メッセージ

7支部連合会の会長に2023年度の事業方針を聞いた。

北海道支部連合会　会長　唐神 昌子

新しい北海道の魅力発信

2023年度は、JTB旅ホ連活動の四つの柱である「宿泊増売」「地域振興・観光振興」「人財育成」「組織強化」を基に現状課題を相互理解のうえに解決し、共に発展する1年として取り組む。

2022年度に準備してきた協業策を実行ラインに乗せ、JTB総販の目標達成、新・HOKKAIDOブランド形成の完成を目指す1年とする。また、北海道仕入販売部の皆さまと旅ホ連北海道支部連合会は「新・4つのお願い」を共有し、さらなる連携強化に努める。特に12月稼働の新客室管理ツールをしっかり理解し相互発展を目指す。

北海道は、2023年度、上期「日本の旬 北海道」、下期「日本の旬 ATT（アドベンチャートラベル）」を開催する年度となり、北海道支部連合会でかねてから取り組んでいた「着地型商品開発支援事業」では旅行目的多様化に対応した、より強い地域連携、地域活性化に向け、北海道仕入販売部・北海道法人事業部とも連携体制を図りつなげていく。

これまで開発してきた北海道の新たな価値を広く訴求し、回復基調にあるインバウンド需要に加え、新たにAT素材による需要を取り込む活動を行っていく。

JTBの2023年～2024年度 エリアVision・基本方針の北海道全領域NO1～北海道グローカル宣言 From 北海道 To HOKKAIDO～

①つなぐ＜CONNECT＞ あらゆるニーズにつなぐ、北海道

②つなげる＜LINK＞ 人と人をつなげる、北海道

③つながる＜COMBINE＞ 世界とつながる、未来とつながる、HOKKAIDO

を共有しっかり連携していく。

SDGsへの対応、物価上昇、深刻な人手不足など、厳しい環境は続いているが、引き続きJTB、関係各事業者と協力し合い、新しい北海道の魅力を全国、世界に発信していけるような活動を積極的に行っていきたい。

東北支部連合会　会長　小口 憲太朗

リアルへの回帰

皆さまはドーパミンをご存じだろうか。神経伝達物質の一つで、生物が生きるために重要な役割を担っている。食べ物を食べて「ああおいしい！」と思うとき、SEXして「ああ気持ちいい！」と思うとき、脳内にドバっと出る。これが分泌されないようにしたマウスはエサを与えても食べない。そして餓死してしまう。ドーパミンは快感や欲望と関係する物質だが、生物は欲がなくなると成仏してしまうのだ。麻薬や覚醒剤を摂取したときもドーパミンが出る。出る速度と量、消えるまでの時間を調べて、薬物の習慣性、危険性の指標とする。生物はドーパミンを求めて中毒になる。

SNSで「いいね」がついてもドーパミンが出る。ランチをインスタに上げて「いいね」が付く。さらに「いいね」が欲しくて値の張るディナーを上げる。いつの間にか多重債務者になってしまう。

デジタルの良いところは「簡単・便利・いつでも・どこでも」であるが、これは「簡単・便利・いつでも・どこでも」中毒になれるということだ。

コロナのどさくさの中、社会の天秤は大きくデジタルに傾いた。企業がデジタルを武器として活用することは良い。しかし個人がデジタル生活にどっぷり浸ると中毒のリスクが高まる。天秤のバランスを取らなければいけない。社会の目を、興味をリアルに集めなければいけない。JTBと協定施設と旅ホ連で魅力的なコンテンツを創造し提供し、旅のリアルな魅力を再認識いただかなければいけない。社会の健全な発展のために、旅は特効薬となる。

西日本支部連合会　会長　皆美 佳那

新時代のパートナーシップ

新型コロナウイルスも5類に移行され本当の意味でのウィズコロナ時代の到来を感じる。しかしその一方でさまざまな物価高騰の影響はリベンジ消費が落ち着いた後の旅行マインドの低下も予想され、予断を許さない。訪日インバウンドの環境は整いつつあり、「2025年大阪・関西万博」を見据えた対策も急務である。

2023年度西日本支部連合会は委員会の再編を行う。「ホテル部会」を解散して「インバウンド委員会」に衣替えをし、「宿泊増売委員会」、「人財・組織強化委員会」と共に3委員会体制とする。またその活動を本部の委員の連携強化により外国人旅行者が望む受け入れ体制の整備、インバウンド商談の実施等をする。

いずれにせよ3委員会を中心に連合会の活動がより活発になるよう努めていきたい。

中部支部連合会　会長　小田 與之彦

インバウンド復活へ共創

中部支部連合会2022年度の活動は、コロナ禍で一進一退を繰り返す中「次なる備え」を中心に進めてきた。特にインバウンドについては21年度よりさまざまな接点を構築してきており、それを活用した取り組みとして域内で同様に組織活動しているJTB中部圏誘致協議会との合同事業としてスケールアップして取り組み、本年3月にアジア圏4カ国の在外個所メンバーに話題のジブリパークを含め中部内の観光スポットを4泊の行程で視察、名古屋入りの際は役員や委員との交流懇親会も開催した。また、昨年の本部総会で紹介されたMaasについて、JTBで取り組んでいる甲府と日光の視察を委員会とセミナーで出向き、今後の地域活動の参考としたい。

今年に入り、規制緩和とコロナ禍脱出の見通しが立ったので、23年度の事業計画と裏打ちする予算は、より積極的な内容として準備している。特にインバウンドの期待は高く、JTB新組織との連携等で「共創」していきたい。これら含め、前述の「次なる備え」を今年度は大いに発揮し、多くの会員に実感いただける活動を目指したい。

一方で、旅ホ連加盟するメリットは宿泊増売以外にも多々あり、その浸透も同時に進め、組織の維持拡大にも努めたい。特に共済や教育研修の充実は「旅ホ連ならでは」のメリットでもあり、宿泊増売だけに傾注することなく、「おもてなし検定」1級合格者を22年度2名輩出した中部として、積極的なPRや活用促進を活動に織り交ぜて推進していきたい。

沖縄支部連合会　会長　平良 朝敬

新たな50周年への一歩

2022年度は、沖縄県においては復帰50周年、JTB協定旅館ホテル連盟沖縄支部連合会にとっても創立50周年と節目の年となった。2023年度は、新たな50年に向けての一歩となる年であり、コロナ禍を経て「沖縄観光」の力を取り戻す1年になると確信している。

基本テーマである、「JTBとの共創及びコミュニケーション強化による宿泊増売と会員経営基盤強化」に基づき、JTBと共に、宿泊増売に向けた取り組みを創りあげたい。

6月、9月には、Aユニットや教育旅行の若手担当者を対象とした受け入れ研修を3本実施。9月には、昨年より復活した北海道支部連合会との交流会にあわせて、東京で販売個所との意見交換会による誘客活動。リアルなコミュニケーション活動も活発化させると同時に、継続して2次交通課題への取り組みも強化。夏の販売最大化を目指し、「やんばるグルっと観光」無料シャトルバスでは、北谷や恩納村等運行ルートの拡大。また、カーシェアを活用した取り組みもスタートさせる。

沖縄支部連合会としては、今後の沖縄入域者数拡大の鍵を握る、訪日インバウンドへの早期回復への取り組みとして「インバウンド部会」の立ち上げや、企業や組織の活動において、SDGsや環境問題への対応が不可欠となっていることから、「SDGs部会」の立ち上げも行う。今年度注目のイベントとして、8月に「FIBAバスケットボールワールドカップ」が開催される。1月27日には「杜の賑い沖縄」の開催も決定。課題に向き合い好機を逃さず、今年も沖縄から目の離せない1年としたい。

関東支部連合会　会長　岡田 浩一郎

正真正銘の旅行復活の年へ

5月のゴールデンウイーク（GW）が明け、いよいよ新型コロナの感染症分類が2類から5類へと切り替わった。

われわれ観光業界にとって、暗く長かったトンネルを抜け、明るい未来を迎えるための待ちに待った転換である。暦年においては2023年に入り既にインバウンドの復活が顕著になっており、JNTOの推計では3月までの合計で既に昨年1年間の入国者数383万人を凌駕したという。また、今年のGWの人出は過去最高だった2019年度を超えたという予測もされており、GW期間が全国旅行支援の対象外であったことも考え合わせれば、いよいよ本当の旅行復活の機運が熟したものと思っている。

あとはこれまで動きの鈍かった団体が動きだすことを願うばかりであり、この点においても旅ホ連とJTBが手を携えて実のある販売促進を実施していかなければならない。

今年度の下期は「日本の旬アドベンチャーツーリズム」が始まる。アドベンチャーツーリズムは、目的志向となったお客さまを誘客するための大切なキーワードであり、1都8県からなる関東支部連合会域内においても、それぞれの地域が持つ魅力的なアクティビティ要素・文化・自然を掛け合わせたコンテンツを内外にアピールするチャンスだと考えている。

いずれにせよ「新・4つのお願い」の実行によるJTBとの協業深化により、JTBの宿泊券販売額目標の達成とわれわれ旅ホ連会員の単価アップと宿泊増売で、WIN－WINの関係を継続させることを今年度の目標としたい。

九州支部連合会　会長　冨森 信作

変化への対応に観光DX

コロナの感染症法2種から5種へ、そして、材料費高騰や燃料費高騰、さらには人手不足、人財不足と高まる賃金上昇圧力。まさにウィズコロナのニューノーマルは、変化の嵐といった状況で「変化にはリスクが伴うが、変化しなければ、もっと大きなリスクを伴う」という言葉が頭をよぎる。

さらには、SDGsや環境に配慮したGX、応用範囲の広がったAI技術のチャットGPTなどが加わり変化のスピードを加速させている。

九州支部連合会は、これらの変化に対応するため観光DXに取り組み、会員の足元と未来を照らし、九州域内の宿泊増売キャンペーンやインバウンド施策により会員の1年間を照らすとともに道しるべとなるべく活動していく。

ちなみに、観光DXで取り組むJTB BOKUN、Kotozna In-room、JTBデータコネクトHUBなどは、生産性の向上と宿泊増売の両面を持っており重点的に取り組む。また、九州域内キャンペーンも個人、法人に分けた取り組みで今年度の宿泊増売を図る。

その他、人手不足・人財不足対策のため、各種検定やJWソリューションの人材マッチングや旅連事業の外国人マッチング、さらには、JTBデータサービスによる障害者雇用など積極的に紹介していく。

変化を乗り切る道具は、ある程度そろった。これからは、この道具を理解しうまく使いこなすことによって明るい未来に向かって歩みを進めたい。

JTB旅ホ連特集

株式会社JTB商事　取扱い商品のご案内

JTB 感動のそばに、いつも。

One-stop Express
［ワンストップエクスプレス］
新しいカタチ（Reborn）
新たな宿泊業界のありかた
巻頭特集は、環境配慮・省力化(DX推進)・高付加価値。

NEW 装備品カタログが新しくなりました！

JTB商事のカタログをデジタルカタログでご覧いただけます。▶

2023年2月 リニューアルオープン！
※一部掲載がされていない商品がございます。営業所、またはプロスペサイト内「お問合せはこちら」よりお問合せください。

PROSPE プロスペ ｜ 宿泊施設業務用品の通販
プロスペ ｜ 検索
http://prospe.net/

JTB商事が運営する通販サイト「プロスペ」で
One-stop Expressカタログ掲載商品のご注文が可能です。

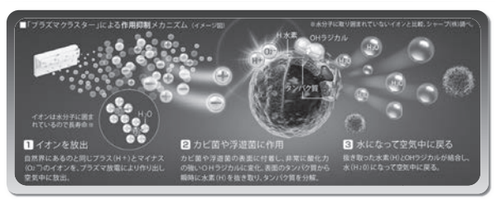
SHARP
宿泊施設向け客室
インフォメーションサービス
Inforia
インフォリア

01/ 圧倒的に使いやすい管理画面でタイムリーに情報更新
02/ ルームオーダーや施設予約などを受付
03/ テレビ・タブレット・スマホ等に対応

宿泊施設スタッフと客室ゲストとのコミュニケーションを非接触・非対面で行えるソリューション。
導入コストも驚くほど低コスト。スタッフには業務効率化を、ゲストには安心安全なサービスを提供します。
客室の環境に合わせて、非AndroidテレビとSTB、タブレットや宿泊ゲストのスマートフォンでもご利用いただけます。
※AndroidはGoogle LLCの商標です。

詳細はこちらから▶

SHARP
JTB商事オリジナル
宿泊施設様向け加湿空気清浄機
プラズマクラスターのある空間がどんどん広がっています



プラズマクラスター7000
当技術マークの数字は、商品を壁際に置いて、「中」運転時に高濃度プラズマクラスター7000適用床面積の部屋中央(床上1.2m)で測定した1cm³当たりのイオン個数の目安です。

KC－M503J－W（ホワイト） KC－M503J－H（グレー）

リラックス運転
1部屋1台あたり 年間約950円の電気代を節電*（約65%節電）
*自動運転時との比較。1日18時間使用とし、空気がキレイな時：13.5時間(75%)、空気が汚れている時：4.5時間(25%)で運転した場合。リラックス運転時 は最大風量を超えて運転します。電力料金目安単価：31円/kWh(税込)(2022年7月改定)(家電公取協調べ)で算出。

外国人のお客様でも安心の外国語表記
日本語・英語・中国語対応

多くの業種の企業で採用されています
世界累計販売台数 1億台突破*
Plasmacluster
*1 2000年10月～2021年10月末のシャーププラズマクラスター搭載商品及びプラズマクラスターイオン発生デバイスの国内・海外出荷台数合計。
厚生労働省が、冬場における換気が難しい空間において、窓開け換気と併せてHEPAフィルター＆風量5.0m3/分程度以上の空気清浄機の仕様を推奨しています。当モデルはこの基準をクリアしています。
参照：冬場における「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気方法(2020年11月27日)
花粉低減製品認定
厚生労働省 推奨仕様クリア

資料請求・お問い合わせは、JTB商事 営業企画部 企画課まで Tel.03-6832-4710 E-mail:sales@jtbtrading.jp HP: https://www.jtbtrading.co.jp/